

CONTENTS

産業保健ストラテジー シリーズ

第1巻 産業医ストラテジー 目次

ストラテジーシリーズ緒言	v
はじめに	vii

第1部 産業医体系を理解する

1章 産業医の職務 小山 一郎

幅広い産業医活動を整理して理解するために、歴史的な経緯を踏まえつつ、産業医理念の骨格と実際活動の項目を系統的に解説する。

1.1.1 はじめに	4
1.1.2 産業医の職務とは	5
1.1.3 労働衛生の5管理からみた産業医の職務	9

2章 日本と世界の産業医制度 山本 真二

産業の変遷とともに変化を遂げた産業医制度を辿る。諸外国の制度との対比により、日本の産業医制度の特徴を解説する。

1.2.1 はじめに	16
1.2.2 産業医制度の変遷とその背景	16
1.2.3 日本の産業医制度の特徴	21
1.2.4 諸外国の産業医制度の特徴	23

3章 産業医の立場 上原 正道

専門知識や経験に基づき現場で産業医活動を展開するために必要な社会性、倫理観、独立性、公正性などのキーワードを読み解く。

1.3.1 産業医に求められる資質	30
1.3.2 信頼される産業医	30
1.3.3 産業医の倫理	31
1.3.4 産業医の立場	33

1.3.5 産業医の独立性	34
1.3.6 産業医の公正性	35
1.3.7 産業医の機能	36
1.3.8 産業医の姿勢と行動	40

4章 産業医の専門性とキャリア形成

梶木 繁之

産業医の専門性確立に必要な3つのコンピタンスとは何か？ これらを身につけるための道筋を示す。

1.4.1 コンピタンスとは	44
1.4.2 産業医活動の目的と専門性	45
1.4.3 産業医の資格と求められるコンピタンス	45
1.4.4 産業医の管理的コンピタンス	47
1.4.5 グローバル企業の産業医に求められるコンピタンス（EUを例にして）	49
1.4.6 専門産業医になるまでの学習機会とキャリア形成	49
1.4.7 コンピタンスを身につけるために	50
1.4.8 行動する産業医	51

5章 産業医の研究活動

永田 智久

戦略的な産業医活動を展開するためには研究マインドが欠かせない。産業保健の現場で研究活動をする際の注意点と特徴について解説する。

1.5.1 科学的根拠に基づく産業保健活動	56
1.5.2 産業医学研究と臨床医学研究の違い	56
1.5.3 産業医が研究に取り組む意義と効用	57
1.5.4 産業医が知っておくべき研究のための知識・技術	58
1.5.5 企業において研究を行う際の留意点	58
1.5.6 まとめ	62

第2部 法制度を活用する

1章 労働衛生を守る法的なしくみ

清本 芳史

産業医が知っておくべき法律・判例、支援事業を紹介する。法を知ることによって善処が可能となる過去の具体的な判例を開示する。

2.1.1 関係法令	66
------------	----

2.1.2	関係行政機関等	68
2.1.3	産業保健推進センター・地域産業保健センター・メンタルヘルス対策支援センター	70
2.1.4	産業医が知っておくべき判例	71

2章 情報管理とプライバシー確保

佐々木 直子

産業医活動に必須の個人情報保護法や倫理指針の理解を踏まえ、正しく効果的な活用方法を紹介する。

2.2.1	産業保健活動と個人情報	76
2.2.2	健康情報の取扱い	76
2.2.3	プライバシーと個人情報保護法	78
2.2.4	産業保健活動における情報管理の実際	80
2.2.5	安全配慮義務とプライバシー確保のバランス	84
2.2.6	事例検討	85
2.2.7	健康情報管理における産業医の役割	88

3章 産業医にとっての労災認定制度

森本 英樹

産業医が知っておくべき労災保険法や関連法律の要点を挙げ、過去の労災事例をもとに労災認定とその対応方法を検証する。

2.3.1	労働者災害補償保険法とその関連法律について	90
2.3.2	労災保険について	90
2.3.3	産業医活動において労災を疑う事例に遭遇した場合	91
2.3.4	労働災害と裁判について	97
2.3.5	その他の事項について	99
2.3.6	まとめ	100

4章 安全配慮義務と自己保健義務

山口 威俊

産業保健の現場における「安全配慮義務」を解説し、呼応する「自己保健義務」との両立において、産業医としてどのように関わるかを詳述する。

2.4.1	はじめに	102
2.4.2	安全（健康）配慮義務と判例の変遷	102
2.4.3	自己保健義務	106

第3部 産業医活動を戦略する

1章 産業保健体制の構築

松井 春彦

産業保健活動を推進するための組織づくり、責任体制、それを支える専門職について解説する。

- 3.1.1 安全と健康の確保 120
- 3.1.2 安全衛生管理組織の運営 124
- 3.1.3 多様化する労働現場への対応 129

2章 ニーズをとらえた産業医活動

坂本 宣明

産業保健ニーズのとりえ方、ニーズに基づく活動の基盤となるコミュニケーション、チームビルディングを解説する。

- 3.2.1 はじめに 132
- 3.2.2 産業保健上の健康 132
- 3.2.3 産業保健活動の目的 ～ビジョンとミッション 133
- 3.2.4 産業保健活動上の顧客と、対象者の選定 134
- 3.2.5 企画の立案 136
- 3.2.6 産業保健上のチームビルディング 140
- 3.2.7 企画立案の事例提示 141
- 3.2.8 産業保健活動のさらなる発展性 143

3章 労働安全衛生マネジメントシステムの展開

小林 祐一

労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の歴史・概念を概観し、その活用法と期待される効果を探る。

- 3.3.1 労働安全衛生マネジメントシステム（Occupational Safety and Health Management System、以下 OSHMS）の歴史 146
- 3.3.2 OSHMS の概要 146
- 3.3.3 OSHMS の規格 147
- 3.3.4 OSHMS の構成要素（要求事項） 148
- 3.3.5 リスクアセスメントの導入手順 151
- 3.3.6 OSHMS における労働衛生分野への応用 153
- 3.3.7 OSHMS を骨格としたグローバル OSH 管理モデル 155
- 3.3.8 統合マネジメントシステムとグローバルマルチサイト認証 156
- 3.3.9 OSHMS の導入によって期待される効果 158

3.3.10 OSHMS の導入における注意点	158
3.3.11 産業医に期待される役割	159

4章 産業保健活動の評価

永田 智久

産業保健活動をどう評価したらよいのか？ アウトカム評価指標とは何か？ 経営リスクや生産性まで考慮する方法とその限界を学ぶ。

3.4.1 個別の産業保健活動の評価	162
3.4.2 産業保健活動全体の評価	164
3.4.3 産業保健と生産性 (health-related productivity)	166
3.4.4 経営者 (意思決定者) との関わり	168
3.4.5 まとめ	171

5章 多様化する雇用形態への対応

佐々木 規夫

安全衛生管理体制を非正規雇用者にどのように適用すべきか？ 雇用形態・就業形態が多様化する中で産業医が配慮すべき視点を探る。

3.5.1 日本型雇用形態の変化	174
3.5.2 雇用形態と安全衛生上の課題	174
3.5.3 雇用の多様化への安全衛生活動	178

6章 組織心理学を応用した活力ある職場づくり

渡部 真弓

組織と個人の相互関係を組織心理学的に解説し産業保健への応用を解説する。

3.6.1 活力ある職場づくり	182
3.6.2 組織心理学とは	182
3.6.3 組織心理学的な職場への介入	190
3.6.4 組織心理学を用いた職制改善の応用例	193

7章 高齢労働社会とエイジマネジメント

金 一成

高齢労働者の能力に合わせた業務のあり方と改善に必要な配慮のポイントを解説する。

3.7.1 エイジマネジメントとは	196
3.7.2 社会背景	196
3.7.3 押さえておきたい知識・事柄	198
3.7.4 健康づくりに関して	201
3.7.5 職場巡視；職務再設計、改善のポイント	201

3.7.6 人事・労務管理に関して	203
-------------------------	-----

8章 疾病志向から健康志向へ

内野 文吾

疾病管理中心の健康管理から、適正管理中心の産業保健への質的転換を提案し、ヘルシーカンパニーづくりを目指す産業医モデルを探る。

3.8.1 健康管理の枠組みの広がり	208
3.8.2 健康管理の進め方	209
3.8.3 適正配置	212
3.8.4 健康志向への転換	214
3.8.5 まとめ	216

第4部 産業医活動を実践する

1章 職場巡視の戦術

幸地 勇

三位一体の戦略的な職場巡視の目的・実施・活用法を解説する。

4.1.1 職場巡視の目的	220
4.1.2 職場巡視の法的位置づけ	221
4.1.3 衛生管理者等が行う職場巡視との違い	221
4.1.4 職場巡視の実際	221
4.1.5 指摘事項の伝え方	224
4.1.6 まとめ	224

2章 健康診断の運用

西埜植 規秀

健診機関の選定から健診計画、健診実施、診断後の対応、その活用法に至るまでの戦略を解説する。

4.2.1 職域における健康診断とは	228
4.2.2 健康診断前の対応	230
4.2.3 健康診断時の対応	231
4.2.4 健康診断後の対応	232
4.2.5 健康診断結果の活用例	236

3章 過重労働対策

河下 太志

過重労働が重視されるに至った経緯、過重労働による健康障害の機序、過重労働に対する産業医の戦略的な関わり方を解説する。

4.3.1 過重労働対策と産業保健	240
4.3.2 医師による面接指導	244
4.3.3 組織へのアプローチ	245

4章 メンタルヘルスへの取り組み

石川 浩二

メンタルヘルス対策の導入手順、関係者の役割分担と連携方法、不調者への対応から健康者集団への対応に至るまでを詳述する。

4.4.1 職場におけるメンタルヘルス対策の必要性	248
4.4.2 産業医の役割と連携	249
4.4.3 個別対応	252
4.4.4 集団への対応	256
4.4.5 おわりに	259

5章 ヘルスプロモーションの進め方

橋口 克頼

ヘルスプロモーションについての歴史的な流れ、産業医としての戦略的な対応についての考え方と実践事例を紹介する。

4.5.1 健康保持増進（ヘルスプロモーション）	262
4.5.2 THP とその変遷	263
4.5.3 健康保持増進対策の戦略的企画	264
4.5.4 健康保持増進対策の事例	269
4.5.5 健康保持増進対策の目指すべき姿	271

6章 快適職場づくり

中尾 智

人間の感覚を考慮した快・不快の測定方法、その対策の立て方とは？ 温湿度、騒音、照度、粉じん、喫煙対策など、豊富な事例から検証する。

4.6.1 快適職場とは	274
4.6.2 快適職場づくりにおける産業医の役割	276
4.6.3 快適職場づくりの進め方	278
4.6.4 快適職場づくりの取り組み事例	283
4.6.5 快適職場づくりと喫煙対策	284
4.6.6 おわりに	285

7章 個別課題への取り組み

奈良井 理恵

上記各論でとりあげていない重要な課題として、がん、私傷病、海外派遣者、感染症への対策等の事例に関する取り組みの方法を模索する。

4.7.1 はじめに	288
4.7.2 がん	288
4.7.3 海外派遣	293
4.7.4 感染症	296
索引.....	303